

今月の聖句

『いずれにせよ、わたしたちは到達した  
ところに基づいて進むべきです。』

フィリピの信徒への手紙 第3章16節

◎8月の予定

27(日)木 二学期始業礼拝  
教職員協議会

31(日)月 給食開始

◎9月の予定

9(日)水 内科検診・尿検査

10(日)木 聖書教室

13(日)日 中郡中学校駅伝競走大会

17(日)木 教務委員会

18(日)金 創立記念礼拝

19(日)土 【創立記念日】

24(日)木 教職員協議会

26(日)土 学校説明会①

◎10月の予定

1(日)木 校内研修会

3(日)土 県中学校陸上競技大会

6(日)火・7(日)水 入学願書受付(小)



8月27日より 一学期が始まりました！

◎今月の行事から

○創立記念礼拝

創設者、澤田美喜が使命を持ってこの世に生まれてきたという考えから、創立記念日は、澤田美喜の誕生日となっています。今年で創立六十七周年を迎えたステパノ学園。次の歩みへと気持ちを新たにすることを大切にします。

○Stephen 国際映画祭

地域の方と交流を持てる「ステパノまつり」が中止となり、全く新しい企画がスタートしています。各学年がオリジナルリテーター溢れる動画を作成し、観合います。学内を感動に包むような名作が生まれるか、今から楽しみます。

※画行事でも学内でのみの行事となります。

ステパノまつりに代えての  
今年度の取り組み

**Stephen 国際映画祭**

一緒にやらせよ！  
全力！ Stephen 国際映画祭

さける三密！ 気持ちは密で！  
Stephen 国際映画祭

みしるしの  
スタンプ



虹

虹は、聖書の中で神様との契約のしるしや、神様の恩恵や栄光を象徴するものとして用いられます。契約は神様と人との間で結ばれたものです。そう考えると虹は神様と私達をつなぐ、まさに「目に見える橋渡しのしるし」にも思えます。今でも虹が出ると学校の子ども達が「虹が出ているー」と大はしゃぎで知らせてくれます。かくいう私も虹が出ているのを見つけると、前述のことを思い出しつつ、仕事の手を止めてしばし眺めています。

文・スタンプ制作 聖書科 咲間教諭  
スタンプデザイン 赤田教諭

中学3年家庭科 夏休み課題

「一人分のお弁当のメニューを考える」



小学校 クラブ活動  
フラワーアレンジメント作品

一秒ほどの短いことば

学園長 小川 正夫

校舎の大きさは変わることはないのですが誰もいない校舎は小さく感じることはありません。コビッド19（コロナウイルス）の影響で一学期は半分ほど授業ができませんでしたが、久しぶりに登校してきた子ども達はみな明るく元気で、「おはようございます」という爽やかな声をかけてくれて嬉しくなります。

いつも下校時に会う子ども達に「気を付けて帰りなさい」と声を掛けますと「はい」「さようなら」と返事が返ってきます。

先日小学校の低学年で靴を履き替えている子どもに「さようなら、気を付けて帰りなさいね」と声をかけると笑顔にのせて「校長先生も、気を付けてかえりなさいね」と言う声が返ってくるのを聞いて、ふと、小泉吉宏さんの詩を思い出しました、

「一秒のことば」

初めまして

この一秒ほどの短いことばに  
一生のときめきを感じることもある

ありがとう

この一秒ほどの短いことばに  
人の優しさを知らることがある  
がんばって

この一秒ほどの短いことばに

勇気が蘇ってくることもある

おめでとう

この一秒ほどの短いことばで  
幸せにあふれることもある

ごめんなさい

この一秒ほどの短いことばで  
人の弱さを見ることがある

さようなら

この一秒ほどの短いことばが  
一生の別れとなることもある

聖ステパノ学園で生活する子ども達は、伝統的と言ってよいほど挨拶がよくできます。おはようございます、失礼します、行って

まいります、ただいま帰りました、ありがとうございます、さようなら、何でもない言葉のようですが、優しい心が育まれているから素直に挨拶ができると言えますし、元気に挨拶する子は俯くことが少なくなるようです。

一日は二十四時間ですが、そのうちの一秒か二秒を自分以外の人に向けてみると自分も相手も平和な気持ちになれると思います。

一秒か二秒かわす言葉に「ね」が加わると一層穏やかな心になれるようです。

嬉しそうね、楽しそうね、良かったね、美味しいね、よくできたね、元気そうだね、すごいね、きれいだね、優しいだね、親切だね、えらいね、さすがだね、よく頑張ったね、困ったね、辛いね、悲しいね、悔しいね、苦しいね、寂しいね、泣きたいよね、怒りたい

よね、気の毒だね、可哀想だね、助けてあげたいね、といった短い声掛けです。

近年、気象や災害情報で「今まで経験したことがないような」という表現を聞くことがよくありますが、経験から得た情報や知識だけでは急速に進化する科学技術や社会情勢の変化に適応していくことは難しくなり、常に目標に向かって現状を建設的に改善していく努力が必要になってくるかと思えます。

初等中等教育のなかでは、世の中に適応していく力をつけることは大切な学習であると同時に、自分達はどういう世の中にしていくたいかを心で学んでいくことも大切です。

コビッド19パンデミックの中で、極力、人との出会い、人との接触や会話を避け、異質なものを排除し、積極的にオンラインシステムを導入し、テレワークに切り替え、効率化、利便性、省力化、自動操縦化を進めることの意味の重要性は理解できますし、大事なことです。それを扱い操作するのは、目の前にいる子ども達人間なわけです。ですから、柔らかな頭と心で温かい人柄が身についた人柄を大事に育むことも大切です。顔と顔を見合わせ、語り合い、学びあい、ともに食事をし、明るい笑顔、元気な弾んだ声を掛け合い、ともに歌い、ともに祈り、喜んで握手できるような、オンキヤンパスライフの中で培われる大切にしたい事があることも確かだと思えます。一秒ほどの短い言葉なのですが心に置き、活用してほしいと思えます。

## チャレンジすることの大切さ

中学校教頭（統括） 佐藤 紀明

筑波、富士、菅生、鈴鹿…、これを聞いてサーキット場と分かる人は、レース好きの人だと思います。学生時代、私はオートバイのレースに夢中でした。オートバイのレースは、バイクの部品代、タイヤ、オイル、ガソリンなどの消耗品代、遠征費、レースエントリー代、ヘルメットやツナギなどの装備代など、とにかくお金がかかりました。アルバイトをしては、全てレース費用に充当していました。レースで優勝すると、スポンサーがつくので毎回優勝を目指して必死に走っていました。プライベートのレース参戦なのでバイク、タイヤなどの性能は大差なく勝つためのテクニク、戦術が勝敗を左右します。相手と同じコースライン、ブレーキングをしていては、いつまで経っても前に出ることはできません。違ったコースライン、ブレーキングを限界まで我慢して、思い切ったこと「チャレンジ」をしなければ絶対にレースは勝てないのでそのチャレンジによって順位を上げることもあれば、逆に順位を下げたり、転倒リタイアということもありました。ホンダ技研工業の創業者である本田宗一郎の「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる」の言葉通り、失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さをレースから学びました。

大学卒業後、高等学校の教員となりました。自分は完璧な人間ではないのに、教師は完璧でなければならぬと決めつけて、少しづつ無理が生じていました。生徒達には、「この世には失敗しない人などいない。失敗するから成功した時の喜びが味わえる。人生は多くの失敗をして、その失敗を踏み台にして進歩、向上していくもの。」などと言っていました。しかし、教師は失敗、ミスは許されないと失敗を一番恐れていたのは自分自身でした。いつしか、失敗を恐れて現状維持で精一杯、新しいことにチャレンジしようなんてことは無くなっていました。生徒達には、失敗を恐れずにチャレンジすることの大切さを言いながら、自分自身は失敗を恐れて現状維持と、言っていることとやっていることが違う情けない自分がそこにいました。聖ステパノ学園の教員になって、今までと一番違ったことは「聖書」との出会いでした。今も、職員朝礼で聖書を拝読していますが、当時も聖書を先生が順番に拝読していました。ステパノに来て、初めて私が拝読した聖書はタラントンのたとえ話でした。タラントンは当時の通貨の単位で、現代の才能や能力を指す「タレント」の語源となっている言葉です。内容は、主人から預かった財産タラントンを、主人の期待と信頼に応えた人はさらに多くのものが与えられますが、失敗を恐れて何もしなかった人は、全てを取り上げられて外に放り出されてしまうといった話です。

聖書を拝読しながら、これは正しく自分のことだと、ハツとしたことを覚えていきます。たとえ話では、失敗を恐れて何もしなかった人を叱っています。どうすれば良かったのか、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサは「神様は私達に成功してほしいなんて思っていない。ただ、挑戦することを望んでいるだけよ。」と言っています。失敗を恐れない、期待に応えるだけでなく、失敗しても、もう一度やり直して信頼に応えようとする姿勢が大切なのだと思います。失敗しても取り返すことはできるし、そこから磨けばさらに多くのもので与えられるのではないかと思います。私達は完全ではなく、不完全な存在なので失敗はつきものです。だから、その失敗を次にどう生かしていくか、常にチャレンジすることによって自分自身に磨きをかけていくことが大切であると思います。聖ステパノ学園にはチャレンジ精神が旺盛な子が多いです。私は子ども達の一番身近な一人の大人として、口先だけでなく、自分自身もチャレンジすることを続けて実践する良き手本の一人になっていきたいと思っています。冒頭のオートバイのレースでのチャレンジが自分自身に磨きをかけるものであったかは分かりませんが、何かに夢中になれるもの、さらに上を目指して頑張れるものを探して、今だからこそ、いろいろなことにチャレンジして欲しいです。そしてチャレンジすることの大切さに気付いて欲しいと思っています。

今こそアートの力が必要なとき

図画工作・美術科・技術科教諭 金阿彌 勉

ステイホーム期間中にアプローチした図工・美術課題に対し、ご理解ご支援を頂戴し誠にありがとうございました。

この期間中まず考えたことは、①アートが「癒し」の力になれるのではということ ②じっくりものを観察できるチャンスができた ということでした。

これをいち早く届けたいという思いで、「自由画帳—Free Sketchbook」を作成し、メッセージとともにお送りしました。

よく、「○○○を描いてみよう」と言われると、よくわからなくて描けないということがあります。それは、絵心が無い、描写が苦手というのではなく、見ているようで実はちゃんと見ていないということなのだと思います。本質を理解するにはもつとよく観る必要があるのではないのでしょうか。

新学習指導要領が目指す形の根底にあるのは、「自分自身がどう思いどうしたいのかを知る」（メタ認知）力を高めることです。そのためには、観察する力を高めることが重要で、今回はそのため千載一遇のチャンスと考えていました。

次いで送らせていただいた「いろいろな色を見つけよう」も中学生に送った「つまようじアート」も、過ぎゆく時間をアートを通し、新たな発見や気づきの時間にしてもらえたらという願いのもと、良いきっかけにできるのではないかと考えました。

登校再開後は、ここから関連付け、小学生は「色のつながり色の広がり」「ここちよいかたち」、中学生は教科等横断的な取り組みとして、美術科「写真」と技術科「情報」を一つの活動で両面で学べる内容を扱いました。子どもたちの豊かな感性を育んでいかれるよう、今後も学習内容を精選して参ります。忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

「好き」になる体育の授業を目指して

体育科教諭 和田 好江

新学習指導要領告示から2年間の移行期では、それまでとは違いを作ることを意識し、指導計画、授業計画、実践、改善をしてきました。ただ、以前よりステパノだからこそでできる、体育で育てたい子ども像としてはさほど変わりません。自らを高めながら、お互い尊重し高め合い、主体的・対話的な活動をベースとしているからです。

「走り幅跳び」では二人組、「リレー」や「ネット型ボール運動」「リズムダンス」ではグループ学習をしています。相談、作戦を立てる、動きを作る、お互いの活動を見合う活動は、大切な「仲間」の必要性を感じられる時間です。特に「リレー」では、小学2年生から走る順を決める活動を始めています。自分だけでは学べない、その友だちがいないと成立しない場面、活動中の共感、終わった時の達成感、お互いを称えるクラスの一体感と、その授業では、自分がよく頑張った↓みんなとやって楽しかった↓体育って楽しいな、と体感することが出来る、「心と体を一体としてとらえる」体育科の特色ではないでしょうか。

学習カードを使った授業では、目標を明確にし、見通しをもって授業に積極的に参加し、振り返る学習を行うことが出来ます。「走り幅跳び」や「キャッチバレーボール」などです。前回の自分の記録や考えを記しておく振り返りは、学びの証となります。「鉄棒」「縄跳び」でも、技を先生や友達と確認しながら取り組みました。

授業への参加を通して体育が「好き」になって欲しいと願っています。大人になっても健康に関心を持ち、運動の必要性を自ら感じて生活に取り入れ、仲間との関わりで得た経験を生きる力として欲しいです。今後も誠実に取り組んでいきたいと思えます。

今、音楽科では

音楽科教諭 根田 栄子

全国一斉休校で始まった今年度初め、『歌唱活動』また『吹奏楽器の演奏活動』を避け『共有する楽器等はその都度消毒する』旨の通知が出され、音楽科としての通常の授業に困難を感じてしまいました。すぐにこれはチャンス！と思い直しました。

今般、学習指導要領が改訂され、中でも『各教科を通じ言語活動の充実を図る』という一節に難を感じていただけれど、演奏できない今こそ鑑賞と、その感想を共有する活動（言語活動）の充実に充ててみよう！と決めました。

とは言え『自分の思いや考え方を言葉にする』というのは、元々多くのステパノっ子達の苦手とする所で…。

そこで『みんなの好きな音楽を聞いてみよう！』という活動を考え、プリントを作ってみました。まず①ジャンルは問わず、自分の好きな曲を一曲決め、そのタイトル②作曲者名（分かれば）③好きな理由やみんなへのおすすめポイントを書きます。そして順番に、その曲を聴いていきます。その後④良かったと思う曲のタイトルと、その理由を書きます。書くのが難しい児童の為、③や④には複数の『例』を挙げ、真似しても良いことを伝えておきました。その後、プリントのいくつかを皆で読み、共有して終わります。

ワクワクしながら回収したプリントを見ると、全体的に語彙の少なさは否めませんが、昨年までより、かなり詳しく文章を書いていく児童もおり、好きな音楽を聴くという方向性は良かったと思います。①ではJポップ、ロック、アニメや戦隊物の主題歌、ゲームの曲、人気ユーチューバーの使用曲等が挙げられ、最近の子どもの音楽視聴環境の変化を実感し、興味深かったです。既にプリントの改善点をいくつか思いついたので、二学期に活かしていこうと思います。

ステパノの家庭科の今

家庭科教諭 飯田 裕美

コロナの流行で、本来のステパノの家庭科が姿を変えました。不自由さを感じていることも事実ですが、こういう時こそ、新学習指導要領に則り、児童・生徒と共に、実生活との関連を図る問題解決能力が多く必要とされるのではないかと思います。

その一つに、この自粛期間中に課題として出したマスク制作がありません。その頃はマスクが品薄で手に入らない状態が続いていました。基礎技能の定着をと思ったのと同時に、「なければ作る」という発想につながれば良いなと考えたこと、また、「お家時間」を少しでも充実できるようにと思い、課題を出しました。そして、学校再開後に子どもたちに自粛期間中の過ごし方を聞くと、お料理やミシンで作品を作るなど、お家時間が充実していたように感じました。また、家族の在り方を改めて考えさせられた期間とも言われていますが、ご家庭における新たな「家庭科」の時間になったのかもしれないと思います、今のステパノの家庭科は、ご家庭の協力があってこそ成立しているのだなとも思いました。

また、私自身できるはずがないと思っていた動画撮影を初めて行うことで、視覚的な教材として非常に有効であることを知ったのと同時に、新たなことにチャレンジするとても良い機会になりました。

本来ならば、昨今の少子高齢化といった社会の変化に対応した内容を踏まえながら、従来から重視している実践的・体験的な活動を今まで以上に計画して行っていました。しかし現状は、先の見えない未来を考えてみると難しいものと思われれます。ですが、幸いなことに、私が小・中学校の家庭科を担当させて頂いているので、家庭科分野における系統性を明確化すること、また、できないならば、それに代わるものを考える努力をし、状況は変わっても、楽しいステパノの家庭科というものを、日々心掛けていきたいと思っています。でも、一日でも早く、懸命な様子の子どもたちを見ながら、家庭科室でワイワイと賑やかに調理実習が行える日々が戻ってきて欲しい！とも思っております。

教諭 高桑 恵

前回、二榎木先生も懸念されていました。コロナによって人との距離が制限される生活の中でどこまで子ども達に寄り添っていいのかが目下の課題です。大人以上に行動を制限され精神的にかなりストレスを抱えていると思われる子ども達。休み時間中に遊ぶ場所に限られ、遊び方も制限され、食事の時間は全く会話をすることができません。自然と子ども達同士の会話も減り、教員との接触も減っています。その上マスクをしているため、お互いに表情を読み取ることが難しくなります。子どもの目線、声の調子や様子の変化などよく観察し、今まで以上に子どもの気持ちを察することが私達に求められているように思います。

私がもう一つ気がかりなのが行事についてです。一学期の行事はほぼ中止になりましたが、これから先も多くの行事が規模の縮小や中止を余儀なくされるでしょう。例年、学習面だけではなく、行事において力を発揮していた子ども達の活躍の場がほぼ無くなるというのは、行事を大事に考えてきたステパノにおいてはかなり厳しい状況です。子ども達にとって必要な力をどのように培うことができるのか。すべての行事を一から組み立て直す必要が生じています。それも今年度だけではなく、現状が長く続くと仮定して方法を考え

ていく必要がありそうです。

一学期の最後の週に小学校は委員会とクラブを一回ずつ行うことができました。先生方や子ども達も感染防止のための手立てをしつかり講じて、無事に一学期を終えることができて本当にほっとしたのと同時に、子ども達のととても楽しそうな表情が見られ、やって良かったと改めて感じました。二学期も感染防止に努めながら、子ども達の笑顔が少しでも多くなるよう最善を尽くしていきたいと思えます。次は高橋先生、お願いします。

### 心と体の 相談室

今できる大切なこと

養護教諭 清水 花葉

テレビや新聞などのメディアからは新型コロナウイルスに関するニュース。人との話題も新型コロナウイルスについて。外出時はマスクを着用し、お店に入る前には設置してある消毒液で手指を消毒する。感染に気を付けながら生活をする。このような日々となり、数か月がたちました。

当初は、少しの辛抱だから感染が落ち着くまで頑張ろうという気持ちでしたし、同様に感じていた方も多いと思います。しかし状況が長引くにつれ、「この生活はいつまで続くのだろう。子ども達は、学校は、日本はどうなる？自分や大切な人達は感染しないだろうか。私達の未来は？」と考えれば考えるほど心配や不安は絶えなくなりそうです。職業柄、最悪の

状況も想定し準備をするということや日常的に行っているからこそ、考えずにはいられない問題です。しかし、今後どうなってしまうのだろうか様々な想像をすることはできません。いくら考えても答えは出ません。各分野の専門家の方々が予測もしていますが、未来は誰にも分かりません。

先が見えないために不安が大きくなってしまふことは、今回の新型コロナウイルスの問題だけでなく、小さなことから大きなことまで誰もが人生の中で経験することだと思えます。通学、勉強、発表会、試験、学校行事、進学、就職、結婚、病氣…。私も先が見えず不安になることがあります。そういう時は、考えすぎて不安になってばかりいても未来は分からないので、今できることを探して行動するようにしています。そうすることで、不安も軽減し、前向きになれると実感しています。

新型コロナウイルスに関して同様、今私達ができることを探して行動することが大切なのではないでしょうか。私は少し前に保健関係の雑誌に載っていたポスターの言葉が心に残り参考にしてるので、ここで皆さんに紹介します。

『今できる大切なことは

感染予防を習慣にしよう  
免疫力を高めよう

感謝の気持ちを忘れない  
明るく前向きに行こう』

**「小学校」ウイス「コロナ」の夏休み、子どもたちは家でも有意味に過ごしていたようです。夏休みの日記から……**

「にじ!!」 今日、ザーザー雨がふったあとに外に出たらにじがでていました!!少しだけしかのこっていませんでしたが:きえるしゆんかんを見られました!!また、にじ見たいな」 (小三 SZ)

昨日、ハンバーガーをつくりました。おばちゃんと晶でやりました。たまごと肉といれた玉ねぎとこししょうとしおとナツメグを入れてよくまぜました。まるめました。それからフライパンでやきました。パンをあけて中にハンバーグをいれました。たべました。おいしかったです。 (小四 SA)

今日、夏休みの最終日でした…。今年の夏休みで良かった事は、遠出出来ない事から、『近くのひと、近くの場所遊ぶ』というきっかけが出来たので、落ち着いて生活出来ました。

色々ガマンしなければいけない事もあったけれど、色々楽しみもあって、楽しい夏になりました。いつもは週に2回ほどしか行かない近所の友達が集まる公園ですが、夏休み、午後はず〜と仲間達と遊んでいました。ぼくがどれだけあの公園が好きか親は知っているの、「マスクを着けたりコロナたいさく

をすれば行っても良いよ」と許可してくれました。本当にありがたいです。

というわけで、公園友達とまたいちだんと仲良くなった夏休みでした。 (小五 HU)

「長崎」

今日は、七十五年前に長崎に原爆がおとされた日です。六日にラジオで少しだけ広島平和式典を聞きました。八月九日十一時二分に、宿題をしていましたが、ラジオから「もくとう」という声が聞こえ、おいのりしました。広島の時はおもくとうできなかったけど、今回はもくとうしました。これから、この時を忘れないようにします。 (小六 MA)



**「中学校」短い夏休みでしたが、日記からは、それが体験した豊かな時間が垣間見えます。**

8月12日(水)

今日は、母が生まれる前から一度もやらなかった居間のシャンデリアの電球とガラスのパーツを、全て外して掃除しました。五十年ぶりです。ガラスのパーツは、百五十個くらいありました。かなり汚かったものが、白くきれいになりました。そして夜は、話題のペルセウス座流星群を見に、庭まで出ました。

(中一 KF)

8月22日(土)

昨日は僕の祖母の母の、かたみの俳句のノートを見せてもらいました。ノートを見たら分からない字がたくさんありました。ぼくが一番気に入った俳句は「隣より貰い南瓜の冬至かな」です。ぼくの作った俳句は「大雨に雷落ちて晴れてきた」です。それから須山先生から手紙が来ました。須山先生は僕が幼稚園の頃の先生です。今は実家の島根県に住んでいます。久しぶりに須山先生に会いに行きたいです。 (中一 AK)

8月26日(水)

先週の木曜日は、お弁当を作りました。私は料理に不慣れなので、お昼の二時過ぎに作り始めました。家庭科の宿題だったので、親の手は極限まで借りませんでした。スーパなどで自分で食材を選ぶひまがなかったの、冷蔵庫に入っているものから吟味して何を作るか決めました。それは勉強よりも難しかったです。かなり時間がかかりました。

片付けも含めると、終わったのは七時過ぎでした。となると、私はお弁当を作るのに、およそ五時間かかることになりました。料理は大変だということに改めて気づかされました。 (中三 KS)





今号は、九年間を学園で過ごした卒業生と、保護者の視点から、卒業式を振り返ります。

\* \* \*

とても印象に残る卒業礼拝式でした。いつもとは違う形でしたが、すごく雰囲気やわらかくて、私達のクラスの良さを改めて感じられるものでした。式まで、先生方が沢山の準備を下さったことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。高校生になって一番思っただのは、中学校のクラスメイトが良かったなと思います。高校で友達もできましたが、すごく寂しいです。でも、新しいことがたくさんあって楽しみな気持ちも大きいです。(N)

\* \* \*

ステパノを卒業した今、私は毎日楽しく過ごしているというよりは、ただただ寂しい日々を送っています。離れてから分かる先生方のあたたかい愛と、みんなのさり気ない優しさに私はどれだけ救われてきたのだろうと改めて思います。少し大げさかもしれませんが、私は毎日が本当に幸せでした。これから私が経験する高校生活は、嫌だなと思うこともたくさんあると思います。でも、そこで立ち止まるのではなく、前を向いて頑張りたいと思います。でも、もし、それで

もダメだったら、先生方が、「いつでも戻ってきていいんだよ。」と言ってくれたので、その言葉に甘えようと思います。(J)

\* \* \*

卒業礼拝式当日、開け放たれたホールの窓から吹き抜ける風が春の訪れを知らせていました。三月に突然休校になり、卒業礼拝式はあるのだろうかと不安な気持ちで待っていました。久しぶりの再会が別れの日になってしまいました。ほんの二時間足らず共に過ごした時間がいかに貴重だったか、時が経つにつれ実感しています。

ホールでは生徒も保護者も間を空けて座りましたが、不思議と寂しさは感じませんでした。かえって一人一人の生徒の立派に成長した姿が際立って感じられました。学園長先生もお元氣になられて卒業証書を手渡し下さり、なんと幸せなことかと思いました。聖歌や校歌を歌うことはできなかった代わりに、礼拝の最後に根田先生が弾いて下さったパイプオルガンの校歌が心に沁みました。落ち着いた、厳肅な卒業礼拝式でした。式が終わり、先生方や職員の皆さんから沢山の愛情がこもった励ましのことをいただき、学校をあとにしました。送り出して下さった在校生、SAの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。息子はまたステパノを訪れる日を心待ちにしています。心の中には懐かしいステパノがいとも変わらずあるようです。(卒業生保護者)

## STEPHEN'S NEWS

### 【表彰】

- 日本漢字能力検定 3級合格 中2 AN
- 実用英語技能検定 5級合格 中2 FY

### 【陸上部 活動報告】

八月二十二日(土)に開催された、中郡中学校陸上競技大会に陸上部の2・3年生が出場しました。

練習の成果を存分に発揮して、ステパノ学園陸上部からは5名が県大会への出場が決まりました。

- 男子 400 mに1名、
- 男子 800 m 2名、男子
- 砲丸投げ 1名、女子
- 800 mに1名出場します。



### 【編集後記】

夏休みが終わり、再び子ども達が登校してきました。今年はコロナ禍で遠出が出来ないなど我慢することも多い中、それぞれの過ごし方でお休みを満喫していたことを感じました。今年初の行事、Stephen 国際映画祭に向けて全校一同頑張ります！(一)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp

二〇二〇年九月九日(水) 発行 第246号